

登別中学校 第3回学校適正配置に関する地区別検討委員会

会 議 次 第

日時 令和4年3月23日（水）18時00分

場所 登別市婦人センター講堂（2F）

1. 開会

2. 報告事項

（1）意見交換会の開催結果について

（2）在校生グループセッションの事前アンケート結果と
グループセッションの再実施について

3. 協議事項

（1）部会の設置について

4. その他

5. 閉会

登別中学校の未来を考える説明会・意見交換会

開催結果

●概要

教育委員会より、登別中学校の現状と今後の見通しについて説明を行い、これに関する質疑を行った後、参加者と意見交換を行った。

意見交換は、はじめに地区別検討委員会委員からの質問に答える形で行い、その後、参加者から自由意見を受けた。

●現状と見通しに関する説明

教育委員会事務局より資料に基づき説明した後、その内容等に関し質疑応答を行った。質疑応答の内容は次のとおり。

質問① 説明の中で、適切な規模、望ましい規模という話があったが、その適切、望ましいというのは、どのような考え方で決められているものなのか？

回答① 教育は子どもたちの「生きる力」を育むことを大きな目標としており、その力は学力、体力、道徳心など様々な要素を含むが、学校の規模についても、そうした「生きる力」を育む上でどの程度の大きさが必要なのかということをも前提としている。規模の基準は、(さきほど説明したとおり)国と登別市がそれぞれ設けており、地域特性を踏まえて、本市の基準は国よりも小さく設定されているが、いずれも学力、体力、道徳心などを育む上で適切な規模を想定したものである。

質問② 登別中学校が幌別中学校に統合となった場合、スクールバスは運行されるのか。また、その運行方法はどのような形になるのか？

回答② 現在は、教育委員会として登別中学校と幌別中学校の統合を検討している段階であり、両校の統合を決定している状況にはない。今後は保護者や地域の議論も踏まえ、教育委員会として結論を出すことになる。仮に統合となった場合には、スクールバスを運行するか、または路線バスを利用し、その交通費に補助を行うか、いずれの方法によるかを検討していくことになるが、現時点では統合の是非に関し検討を行っている段階であり、スクールバスをはじめとした通学手法に関しては、その後の議論になる。

●参加者との意見交換

はじめに地区別検討委員会委員からの質問に答える形で意見交換を行った。その後、参加者より自由に意見を募った。

【質疑応答による意見交換】

質 問

登別中学校を幌別中学校に統合すること自体をどう考えているか？

- 回答① 地元で中学校が無くなることに抵抗感がある一方、今後、生徒数が減少していくことを考えれば、避けられないものと理解している。また、多様性が重んじられる社会に移り変わっていく中で、統合により一定の規模を確保することが必要と思う反面、やはり地元で中学校を残したいという思いもあり、複雑な心境である。
- 回答② 地元の中学校を無くすことについては基本的には反対であるが、子どもが減少していく中であっては仕方ない部分があるのも理解している。ただ、登別地区は、地理的に独立した特殊な地域であり、若い世代に選んでもらえるようまちづくりに力を入れ、何とか残して欲しいという思いである。
- 回答③ 大人数の中で様々な人に関わりながら学んでいける環境が必要と思っているので、統合には賛成である。

質 問

仮に幌別中学校と統合になる場合の懸念や不安について聞かせて欲しい。

- 回答① 子どもの教育環境を考えれば統合には賛成。運動にしても、チームスポーツをやること自体に支障を来している状況であり、統合はやむを得ないと考えている。ただ、地域から中学校が無くなってしまえば、住民もいっそう減少していくことが考えられる。特に登別地区は温泉地区で働く人に選ばれている部分もあるわけだが、地域から中学校が無くなった時にはそうした人達に選ばれなくなってしまうのではないかと懸念している。
- 回答② 子どもを見ていると、非常に視野が狭いと見えさせられることが多く、統合で学校の規模が大きくなることは良いことだと思っている。私自身、登別小学校や中学校で素直に育てている子どもたちを見て、登別地区に引っ越して来た経緯があるが、その反面そうした限界も感じており、統合には賛成である。ただ、幌別中学校までの通学手段などについて心配している。
- 回答③ 統合に関しての不安というのは特にはない。やはり子どもたちに良い環境で学んでもらうのが大切だと思うので、そのために必要であれば統合すればよいと思う。一方でやはり中学校が無くなることで町が衰退していくこと

が心配なので、そうならないためのまちづくりに取り組まなければならないと思う。

回答④ 子ども三人を登別小学校に通わせているが、親としては、経済的な面も含め、子どもたちが何年後にどの学校に行ってしまうというようなことをイメージしながら子育てしたいとの思いがあり、早い時期に見通しを立てられるようにして欲しいと思っている。

回答⑤ 私自身、虎杖小学校、虎杖中学校の出身であり、子どもながらに大人の都合で統合したという思いがあったので、仮に統合するのであれば、子どもたちの不安を解消するのはもちろんだが、統合により学校生活がどう変化するか、プラスのイメージを持って統合に臨めるよう取り組んで欲しい。

質 問

規模を大きくするメリットが本当にあるのか疑問を持っている。子どもを小規模校に通わせていたが、大規模校に比べて教員の目は行き届き、いじめの問題なども生じにくいと思う。小規模校には競争環境を得にくいなどといった課題がある反面、教員の指導が行き届きやすいなどといったメリットもある。そうした意味で、小規模校のメリットとデメリットをどう考えているかお聞きしたい。

回答① 小学校に関しては、核家族化が進む中で、地域の方と触れ合いながら、地域色豊かな環境の中で教育を受けることはメリットだと思っている。一方で、中学校に関しては、高校進学を控える中で、環境変化に備えるという意味でも、ある程度大きな集団を確保することが必要だと思う。高校進学時に新たな環境に慣れるのに時間を要し、精神的な負担も大きくなると思う。そうした意味で、小学校については小規模校のメリットが勝り、中学校については統合のメリットが勝るのではないかと考えている。

回答② 私自身、1学年1クラス、クラス人数も20数人という小規模校に通っていたが、メリットとしては、同学年だけでなく、先輩後輩の繋がりが強く、ある意味で家族的な環境で学生時代を過ごせたことは非常に良かったと思っている。一方で、やはり部活動にはかなり制約があり、私自身、あまり興味の無いスポーツを選択せざるを得なかったという面はあり、そうした部分はデメリットだと思っている。

質 問

さきほど登別小学校に通わせるために幌別から引っ越されてきたという方がいらっしやしたが、それは小規模であることに惹かれてなのか、あるいは登別小学校の校風に惹かれてなのか、あらためて聞かせて欲しい。また、仮に幌別中学校と統合になった場合に、そのことをどう感じるのか聞きたい。

回答① 登別小学校は良い意味で家庭的な雰囲気、子どもたちも素直な子が多い印象があり、そうした環境の中で子育てを行いたく引っ越してきたのだが、実際に子どもたちを見ていると、考え方の視野が狭い部分があり、もう少し大人数の中で、様々な考え方に触れることが必要なのではないかという思いを持つに至った。このため、中学校に関しては、明日中等教育学校への進学も検討しているところである。

質 問

地域にとってとか、まちづくりの上でとかではなく、やはり子どもたちがどう感じているのか、子どもたちの教育環境としてどうあるべきなのかというのを第一に考えなければならないと思う。そうした意味で、保護者の皆さんが、いま子どもたちが置かれている環境をどう捉えているのかあらためて聞かせて欲しい。

回答① 何人程度を小規模というのかは難しいところがあると思うが、小規模校のメリットと言っても、やはりある程度の人数は必要ではないかと思っている。部活動にしても、チームスポーツが成り立たないような人数はやはり問題があると思う。また、小規模校ではいじめが無いという話もあったが、経験上、規模が小さくてもいじめは生じるものであり、規模の大小は関係ないように思う。

【参加者からの自由意見】

意見① 小中学校施設の老朽化も進んでいるものと思われるので、施設の改修や建替の計画なども勘案しながら、統廃合の議論を行うべきだと思う。

意見② 小規模校の場合、男女比に偏りが生じやすいという課題があり、1学年に女子が数人しかいないのは可哀想との意見があったようだが、当事者の児童にとっては、必ずしもそうだと言いつけるものではない。そうした意味でも、是非当事者である子どもたちの意見を聞きながら進めてもらいたいと思う。

●生徒数が少ないからこそ、良いところだと感じているところ

【教員との関係など】

- 先生方との交流も多い。
- 授業中に先生が目が行き届きやすい。
- 先生が一人一人に細かく教えてくれる。
- 先生方が一人一人をしっかり見てくれる。
- 先生が全生徒を把握していて、小さな変化に気付いてもらえる。

【生徒間の交流など】

- 生徒同士の仲が良い。
- 生徒同士の関わりが多い。
- 1人1人の良いところを詳しく知れて仲が深まる。
- ずっとクラスが同じだから、クラスの人達との絆などがすごく深まる。
- クラス替えが無いから、みんなとずっと同じクラスでいられる（友達づくりに苦労しない）。
- 全校生徒の名前や顔を知っている。
- 先輩後輩関係なく仲が良い。
- 他学年との交流が多い。
- 人が多くないから話しやすい。
- （慣れたメンバーなので）あまり気を使わなくていい。
- みんなと会話したことがあるため、コミュニケーションを取りやすい。
- クラスメイトが幼馴染のような関係にある。
- 一人一人の距離感が近く、学校全体がとてもアットホームな雰囲気である。
- ほとんどの人が小学校から同じであるため、顔は知っており、何となくの性格はわかる。
- 部活の雰囲気が和やかで楽しい。
- 部活動などで仲を深めやすい。

【集団行動など】

- 全員に責任がある。
- 意見がまとまりやすい。
- 集団行動、班行動が早い。
- 協力する人数が少ない分、連携が取りやすく、仕事などが早く終わる。
- 一つにまとまりやすい。
- 一斉に行動しやすい。
- 団結力がある。

【施設内の密度など】

- 混雑にならない。
- 施設を広く使える。
- 教室の中が静か。
- 集中して学習することができる（騒がしくない）。
- バス通学でも人と人が密にならずに通学できる。
- 部活動は体育館全面を使える日が多い。

【発表の機会など】

- 授業であてられることが多い。
- 行事などで大体みんなに仕事が割り当てられる。
- 全校生徒が様々な行事に参加できる。
- 行事等で活躍できるかもしれない。
- 大勢の人の前で意見を述べるのが苦手だから、人数が少ない方が意見を述べやすい。
- みんなの前で話しやすい。

●生徒数が少ないことで困ることや苦勞すること

【競争機会など】

- 人と競う場面が少ない。
- テストの順位が固定化する。
- テストの順位に競争が無い。
- テストでの順位をあてにできない。
- 人が少ないので、テストの結果を比べられない。

【交流経験など】

- 変化が無い。
- 交流の幅が狭い。
- 他の学校の人達のようにクラス替えを体験できていない。
- 知っている人ばかりなので知らない人と話すのが苦手。
- クラス替えが無いと、初対面の人との関わりや経験が少なく、難しさを感じる。
- 知っている人のみで形成された学校なので、他校と集まる時に積極的に話しかけることができない。
(コミュニケーション力の不足を痛感させられる)
- 人数が多い学校と比べて社会性が学べない。
- 助け合いの場面が少し足りない。

【人間関係の固定化など】

- グループができやすい。
- 悪口や噂が広まりやすい。
- 1回関係が崩れたら、元に戻りづらい。
- 高校に行ったら困るような気がする(知らない人の中でやっていくことになる)。
- 席替えしても新鮮味が無い。
- 友達と仲が悪くなる時には噂が広がりやすく、日常生活で一緒になってしまうこともある。
- 人とトラブルを起こした時の対応が難しい。

【部活について】

- 部活の種類(選択肢)が少ない。
- 部活動の選択肢が少なく、本当に自分が入りたい部活を選べない。
- 部活の人数が少ない。
- 部活動の部員が年々減りつつある。

【集団行動など】

- 集団で生活することの意識を高めにくい。
- 人数が少ないからこそできないことが多い。
- 一班あたりの人数が少ない。
- クラスで何か作る時に人手が足りない。
- 何か物をつくる時に分担するけど、人数が少なく、完成するまでに時間がかかってしまう。
- 系の活動や行事の準備が大変。
- 行事などで一人の担当する役割が多い。
- 1人があきらめると次々にあきらめる人が出てきて人任せになる。

【その他】

- 人数が少ないと寂しい。
- あまり元気が無い。
- 伝統を引き継ぐのが難しくなってくる。

登別中学校 在校生グループセッション

開催結果

●概要

事前に在校生を対象に実施したアンケートの結果を参考に、グループワークの形式で、①生徒数が少ないからこそ、良いところだと感じているところ②生徒数が少ないことで困ることや苦勞することをテーマに聞き取りを行った。

実施にあたっては、1年生と2年生を対象に、1クラスを2つのグループに分け、各グループに進行役及び筆記役の事務局職員と質問役の地区別検討委員会委員が加わる形を採った。

●在校生から聞かれた意見

グループワークで在校生から聞かれた意見は次のとおり。

①生徒数が少ないからこそ、良いところだと感じているところ

【教員との関係など】

- ・先生から細かく指導してもらえる。
- ・勉強で分からないところも先生に聞きやすい。
- ・先生との関わり合いが深い。

【生徒間の交流など】

- ・(少人数のため)性格もわかっていて、個々人のことを理解できる。
- ・基本的な関わり合いがあり、挨拶しやすい。
- ・クラスの中で仲間はずれなどが無い。
- ・幼稚園(保育所)からの生徒も多く、仲が良い。
- ・他学年との交流が多く、(他学年であっても)ほとんどの生徒がわかる。

【集団行動など】

- ・行事などで積極的に協力しあえる。
- ・競争心はあまりないが、全員で取り組んで行きやすい。
- ・学校活動する時に分担しやすいほか、行動する時に目配りしやすい。

【施設内の密度など】

- ・学校が広く使え、混雑しない。
- ・コロナ対策がしやすい(人数が少ないので間隔がとりやすい)。

【発表の機会など】

- ・体育授業などでは、人数が少ないため、1人が多くの回数を行うことができる。
- ・授業などで意見を言いやすい。
- ・部活（吹奏楽）での曲決めやパート決めなどで自分の意見を言うことができる。
- ・部活では、部員が少ないので活躍しやすい。

②生徒数が少ないことで困ることや苦勞すること

【競争機会など】

- ・テストなどは学校内の順位なので、学力がわからない。

【交流経験など】

- ・（この学校で身につけた）コミュニケーション力が今後も使えるか不安。
- ・（部活など）他校と交流する場面で積極的に話すことが難しく、輪に入れない。
- ・人数が増えたり、知らない人がいると話しづらさを感じる。
- ・大人数がいる環境で、多くの人と交流し、視野を広げたい気持ちがある。

【人間関係の固定化など】

- ・クラス替えなどがなく、新たなコミュニケーションがないため、人間関係が固定化される。
- ・生徒同士のトラブルが生じると、グループ分けが出来てしまう。

【部活について】

- ・部活の選択肢が少ない（やりたい部活動ができない）。
- ・人数が少ないので、欠員が出ると大会出場が難しくなる。
- ・人数が少ないので部活の活動に限界がある（吹奏楽でも各パートの人数が少なく、音に厚みがない）。

【集団行動など】

- ・クラスで複数の役割が当たっていることが多く、（休みなどで）一人欠けると困る事がある。
- ・（休みなどで）生徒が欠けるとグループ活動に支障が生じてしまう。

登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会 部会の設置について

1 部会設置の趣旨

学校は子どもたちの教育の場としてはもちろん、地域社会においてもまちづくりの拠点として多様な役割を担うほか、学校の有無はその町の人口動向にも大きな影響を及ぼす。

このため、登別中学校の今後のあり方や統合の是非を検討するにあたって、教育環境、まちづくり両面からの議論が必要であり、委員会における議論の円滑化を図るため、設置要綱第8条に基づき、教育環境、まちづくりの両部会を設置し、部会でそれぞれの議論を進めることとする。

2 各部会について

各部会の構成、活動内容等は次のとおり。

①教育環境部会

(部会員の構成)

登別中学校及び小学校の保護者、校区内の未就学児童保護者、学校運営協議会の各選出委員を中心に10名程度で構成（委員構成は別紙参照）。

(活動内容)

- ・保護者との意見交換などを通じた情報収集
- ・教育環境の観点から登別中学校の現状と今後を分析
- ・教育環境の観点から登別中学校の今後のあり方などを検討

②まちづくり部会

(部会員の構成)

地区連合町内会選出委員を中心に10名程度で構成（委員構成は別紙参照）。

(活動内容)

- ・まちづくりの観点から地域における登別中学校の役割を分析
- ・登別中学校の統廃合が地域に及ぼす影響を分析
- ・まちづくりの観点から登別中学校の今後のあり方などを検討
- ・仮に登別中学校が統合となった場合の校舎の活用方法などを検討

3 今後の議論の進め方

今後は部会で分野別の議論を行い、議論の経過を部会から地区別検討委員会に報告。委員会では、部会からの報告を踏まえ、教育環境、まちづくり両面から総合的な議論を行う。なお、部会から委員会への報告は、議論の節目で適宜行うこととするが、概ね2～3カ月に1回程度の報告を想定する。